



マネジメントシステム部会

1. これまでの経過

この部会は MIS 部会からそのメンバーを多数引き継ぎ、内容的にも前 MIS 部会での研究の延長、発展的なものを大体の方向として 1974 年 6 月にスタートした。その後新メンバーも加わり、必ずしも MIS 部会での研究領域にとらわれる必要はなく、まったく新しい観点から研究作業を進めていくべきであるという考えから、これまでの 5 回にわたる作業を研究テーマ選択のために費やしてきた。

2. 研究テーマアンケート

まず部会メンバーに対して、その研究対象としての興味、希望に関するアンケートをとった。そこで出てきたものがだいたい次のようなものに集約された。

- (i) 日本企業における意思決定プロセスの実態
- (ii) 日本の風土にあった経営情報システム
- (iii) ストラテジック・プランニング用の経営情報システム
- (iv) 不確定な環境に対処するシステム・モデル作成
- (v) 構造のはっきりしていない意思決定問題に対する接近
- (vi) ハイエラキアルプランニング・モデル
- (vii) システム開発におけるシステムグループとラインとの関係
- (viii) システムデザインと組織との関係

3. テーマ選択

これまでのテーマは重複するところもあり、数も多過ぎるので当面のテーマとして、次の四つに集約してみた。

- (i) 日本企業におけるストラテジックレベルでの意思決定の実態

このテーマにおいては、ベンチャービジネス、新製品開発等のきわめて、問題構造が漠然としていて、かつ、戦略的、長期的な意思決定領域での具体的な事例を研究、分析しその中にみられる共通事項を洗い出し、類型化、仮説作り、その検定等を行なう。

- (ii) ストラテジック・プランニング用情報システム作り

ストラテジック・プランニングそのものの対象がきわめて構造がはっきりせず、処理していく情報もきわめて不確定かつ量的把握のむずかしいものが多い。そこでこのための情報システムといっても、オペレーションレベル用のものとくらべて、はっきりしたイメージがつかみにくい。そこで一つの考え方としてはコンティンジャンシープラン (Contingency plan) を提供するシステムに考えられる。すなわち企業の目標、価値判断基準を変えてみた場合にプランがどう変わってくるか、環境が変化した場合に企業のプランがどのような影響をうけるかが簡単にチェックできるようなシステムが考えられる。さらにトップマネジメントの意思決定過程を大ざっぱにでもつかみ、それに対応したモデルを使えば、トップマネジメントがもっと積極的に情報システムを使うようになり、その中からさらによりシステム作りへの接近も可能になるのではなからうか。

- (iii) システム開発における開発グループとライン (ユーザー) との関係

これは MIS を含め、いかなるマネジメントシステムの開発においても問題になることであるが、まだこれという解決法はない。そこでアージュリスその他の研究報告、実際の企業における経験からなんらかの解決法をさがす。

- (iv) コーポレートプランニングとディヴィジョンアルプランニングの接点

組織上のハイエラキーに対応し、プランニングおよび意思決定においても上から下への流れがみられる。そこでトップマネジメントから各部門別へのプランニング作業の流れがどうなっているのか、接点をどう作っていったらよいかがこの研究内容である。

これらのテーマについてさらに詳細な検討にはいったものの、まだ多分に重複した部分があり、また研究領域がまだはっきりしないものもあり、さらに作業を進めていかなければならないところである。

4. 研究発表

このテーマ設定作業に平行して、メンバーの研究

発表が次のように行なわれた。

- (i) マネジメントシステムの創造的過程
発表者：前 MIS 研究会主査 松田武彦教授
- (ii) MIS…理論と実際
発表者：野村総合研究所 山田善晴氏
- (iii) 日本石油におけるプランニング活動の実際

発表者：日本石油 兼清賢介氏

今後も研究発表、テーマスタディー等を通じて、焦点をどこにあてていくかを検討していく予定。実務家の参加を大いに望みます。

(申込先：〒180 武蔵野市吉祥寺北町3-3-1
成蹊大学工学部 星 孝雄)



中 部 支 部

任期満了の本告光男氏（中部電力）に代わり新支部長として岐阜大学の福田治郎氏を迎え、あわせて法人化に伴う本部規約の変更に関連し支部規約も変更し、気分も新たに支部総会、支部研究発表会から74年度活動のスタートを切った。活動の中心である月例研究会にはいつも20～25名の参加者がある。なかには片道1時間半もかかる所から、時には新幹線を利用してまで参加するほど熱心な会員もいて、研究会の後、喫茶店、飲屋へと発展していくこともしばしばである。

74年度の活動状況は次のとおり。

(1) 会議関係

支部総会 1回、運営委員会 2回、幹事会 4回。

(2) 講演会

50.1.25 新日鉄 矢部 真氏
「企業のためのOR」

これは本部の月例講演会を兼ねて行なった。約40名の参加者があり、好評であった。

(3) 研究発表会 49.3.9

会員だけではなく広く学生にも参加を呼びかけ、15件の研究発表を2会場に分けて行ない盛況であった。締めくくりとして村手理事（名古屋鉄道）による特別講演「リトル・ワールドについて」があり、続いて懇親会を行なった。

(4) 研究会

- 1) 49.4.20 名城大学 中川覃夫氏
「最近の信頼性理論における話題」
- 2) 49.5.18 南山大学 飯原慶雄氏
「確率計画法」
- 3) 49.6.15 中部電力 田中庸平氏
「電力負荷曲線の実態調査」

4) 49.7.20 名古屋市立大学 岩橋亮輔氏
「離散系の最適制御について」

5) 49.9.14 愛知県庁 後藤欣之輔氏
「愛知県の新しい総合計画について」

6) 49.11.16 電々公社 吉野玄一氏
「バイオリズム理論の科学性と有効性」

7) 49.12.21 南山大学 田中栄一氏
「数理計画法について」

(5) 見学会

8月7日、13名で中部電力浜岡原子力建設所を見学した。1号機が試運転間近ということで、緊張した空気の中で中電の中村係長からユーモアを混ぜて2時間半にわたって解説・案内していただき、一同認識を新たにした。

(6) 懇親ハイキング

恒例のハイキングを6月9日東海自然歩道御嵩コースで行ない、約15kmのコースを全員元気に踏破した。とくに2人のN氏は奥様同伴で参加され、独身者を口惜しがらせた。

(7) 懇親会

3月9日、研究発表会の後に懇親会を行なった。当時学会会長だった小野先生や、会員ではないが当日研究発表を行なった会員予備軍ともいべき学生など20余名がカニ鍋をつつき、にぎやかに談笑し大いに親睦を深めた。

(8) 刊行物

1) 支部ニュース…行事の案内、意見交換、会員消息その他。9回発行。

2) 支部ノート…研究会の記録を研究会欠席者へも送る目的で発行していたが、印刷費がかさむので2回発行し、以後中止している。

3) 支部研究発表会アブストラクト。

(田中庸平記)